

新潟県埋蔵文化財調査事業団年報

令和 6 年度
(2024)

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

埋蔵文化財は、新潟県はもとよりわが国の歴史や文化を正しく理解するために欠くことができないものであり、かつ将来の文化の発展向上のために適切に保存・活用していくべき貴重な文化遺産です。

当事業団は、平成4（1992）年に新潟県が出資して設立したもので、組織の中心的な事業である発掘調査及び整理・報告書刊行のほか、埋蔵文化財保護に関する普及啓発・資料管理などに努めています。平成26年度には公益財団法人として再スタートを切り、現在に至っています。本書は、令和6（2024）年度に新潟県の調整を経て実施した事業の概要や成果などをまとめたものです。

発掘調査は国土交通省事業関連の8遺跡、21,489㎡を実施しました。このうち、縄文時代後期の大規模集落である村上市上野遺跡（国道7号朝日温海道路）では、多数の平地建物や8本の柱穴が凸字状に配列された大型掘立柱建物が検出されたほか、焼人骨集積土坑から出土した人骨の分析を進めました。南魚沼市金屋遺跡（国道253号八箇峠道路）では平安時代の竪穴建物と畑作溝を検出し、六日町藤塚遺跡（国道17号六日町バイパス・国道253号八箇峠道路）からは古墳時代の須恵器フラスコ形提瓶が複数出土しました。上越市舘遺跡、堂古遺跡、二反割遺跡（国道253号上越三和道路）では、それぞれ中世前期の集落が見つかりました。

整理作業は、南魚沼市六日町藤塚遺跡（第4～6次調査）等の整理を行いました。また、柏崎市丘江遺跡（第4・6・8～11次調査）、南魚沼市余川中道遺跡（第6次調査）、同市六日町藤塚遺跡（第7・8次調査）の発掘調査報告書を刊行しました。これらの情報は、年3回発行の広報紙『埋文にいがた』やホームページで随時公表したほか、4遺跡で現地説明会等を開催し、延べ434人の参加者がありました。

普及啓発事業関係では、企画展「キラキラ☆施釉陶磁器の世界」、「発掘！新潟の遺跡2024」を開催したほか、特別講演会などを実施し、多くの方々に参加していただきました。また、火起こしや勾玉作りなどの体験を取り入れた校外学習支援やキッズ考古学教室では、児童・生徒に対して埋蔵文化財の価値や保存の大切さ、古の人々の生活や知恵を学ぶ楽しさを知る機会を提供できたものと考えています。

最後に、日ごろ当事業団の事業に御理解・御協力をいただいている関係各位に対し、厚くお礼を申し上げますとともに、今後のさらなる事業の推進に向け、一層の御支援をお願いいたします。

令和7年8月

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

理事長 関根 慶一

目 次

I (公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団の概要

1	目的及び事業	1
2	設立年月日	1
3	基本財産	1
4	組 織	1
5	役員及び職員	2
6	理事会・評議員会	2
7	予算及び決算	3
8	主な行事	4

II 発掘調査・整理事業

1	本発掘調査実績一覧	6
2	本発掘調査遺跡位置図	6
3	本発掘調査	6
	上野遺跡（第8次）（国道7号朝日温海道路）	7
	六日町藤塚遺跡（第9次）（国道17号六日町バイパス）	9
	六日町藤塚遺跡（第10次）（国道253号八箇峠道路）	9
	金屋遺跡（第8次）（国道253号八箇峠道路）	11
	丘江遺跡（第12次）（国道8号柏崎バイパス）	12
	山崎遺跡（第5次）（国道8号柏崎バイパス）	13
	館遺跡（第4次）（国道253号上越三和道路）	14
	堂古遺跡（第4次）（国道253号上越三和道路）	15
	二反割遺跡（第3次）（国道253号上越三和道路）	16
4	整理・報告作業	17
5	保存処理	18

III 普及啓発事業

1	現地説明会等	19
2	企画展・常設展	19
3	発掘調査報告会・講演会	19
4	校外学習・体験イベント等	20
5	広報	21
6	利用者数	21
7	出土品の管理	22
8	図 書	22

IV 市町村及び関係機関等への協力

23

I (公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団の概要

1 目的及び事業

県内における埋蔵文化財の調査及び研究、保護思想の普及、啓発などを行い、本県文化の向上に寄与することを目的として次の事業を行う。

- ア 埋蔵文化財の調査及び研究
- イ 埋蔵文化財保護思想の普及
- ウ 埋蔵文化財調査技術の指導及び研修
- エ 出土遺物の保存処理
- オ 埋蔵文化財に関する資料の収集、保存及び刊行

2 設立年月日

平成4年3月31日

3 基本財産

3,000万円（県の出捐）

4 組 織

（令和6年4月1日現在）

評 議 員 会

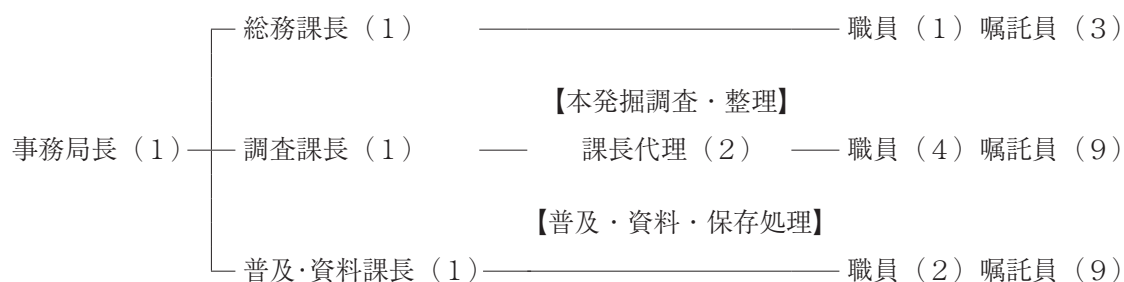
評議員（4）

理 事 会

理事長（1）——— 専務理事（1）——— 理事（2）

監事（2）

事 務 局（職員総数34）



5 役員及び職員

(令和6年4月1日現在)

役員

職名	氏名	備考	職名	氏名	備考
理事長	関根 慶一	県観光文化スポーツ部長	評議員	小林 昌二	新潟大学名誉教授
専務理事	松田 英世	事業団事務局長	〃	寺崎 裕助	(前) 県考古学会会長
理事	笠原 英一	(元) 株BSNウェブ顧問	〃	橋本 博文	新潟大学名誉教授
〃	廣野 耕造	新潟市文化スポーツ部歴史文化課長補佐	〃	水倉 健	県土木部道路建設課長
監事	豊田 智	税理士			
〃	山田 修	(元) 県監査委員			

職員

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
事務局長	松田 英世	専門調査員 〃	加藤 学 加藤 元康	普及・資料課長 【普及・資料・保存】	佐藤 友子
総務課長 班 長 嘱託員	高橋 知浩 伊藤 雅美 3名	【整理】 課長代理 嘱託員	土橋由理子 9名	班 長 〃 嘱託員	目黒 卓行 上田 悟司 9名
調査課長 【本発掘調査】 課長代理 専門調査員 〃	荒川 隆史 石川 智紀 春日 真実 飯坂 盛泰				

6 理事会・評議員会

会議名	開催日	付議事項等
臨時理事会 (書面決議)	令和6年4月1日	1 理事長の選定
第1回定例理事会	令和6年5月29日	1 令和5年度事業報告 2 令和5年度決算 3 任期満了に伴う次期役員候補者の推薦 4 定時評議員会の開催
定時評議員会	令和6年6月19日	1 令和5年度事業報告 2 令和5年度決算 3 役員の任期満了に伴う改選
臨時理事会 (書面決議)	令和6年6月19日	1 理事長及び専務理事の選定
第2回定例理事会	令和7年3月24日	1 令和6年度事業計画の一部変更 2 令和6年度収支補正予算 3 令和7年度事業計画 4 令和7年度収支予算 5 寄附金の募集 6 役員賠償責任保険の加入

7 予算及び決算

令和6年度収支決算書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

収入の部

(単位：円)

科 目		当初予算額	補正後予算額 a	決算額 b	増減 (b-a)	備考
大	中					
基本財産運用収入	基本財産利息収入	1,000	2,000	1,753	-247	
事業収入	発掘調査受託収入	1,166,084,000	1,107,764,000	1,107,763,570	-430	
	センター管理運営受託収入	23,682,000	23,702,000	23,702,000	0	
	(センター管理業務受託収入)	11,762,000	11,098,000	11,097,750	-250	
	(保存処理業務受託収入)	3,200,000	3,200,000	3,200,000	0	
	(普及啓発業務受託収入)	7,803,000	7,823,000	7,823,000	0	
	(センター維持修繕業務収入)	917,000	1,581,000	1,581,250	250	
	自主事業収入	912,000	919,000	919,076	76	
	遺物収蔵品移転業務受託収入	0	13,579,000	13,578,765	-235	
補助金収入	国庫補助金収入	3,060,000	3,060,000	3,060,000	0	
	地方公共団体補助金収入	800,000	800,000	800,000	0	
雑収入	雑収入	20,000	17,000	16,450	-550	
当期収入合計 A		1,194,559,000	1,149,843,000	1,149,841,614	-1,386	
前期繰越収支差額		364,000	343,000	359,598	16,598	
収入合計 B		1,194,923,000	1,150,186,000	1,150,201,212	15,212	

支出の部

(単位：円)

科 目		当初予算額	補正後予算額 a	決算額 b	増減 (b-a)	備考
大	中					
受託事業費支出	発掘調査費支出	1,050,511,000	1,004,124,000	1,004,124,484	484	
	(国土交通省発掘調査費)	1,050,511,000	1,003,029,000	1,003,029,610	610	
	(NEXCO東日本発掘調査費)	0	1,095,000	1,094,874	-126	
	試掘・確認調査費				0	
	センター管理業務費支出	11,762,000	11,098,000	11,097,750	-250	
	保存処理業務費支出	3,200,000	3,200,000	3,200,000	0	
	普及啓発業務費支出	7,803,000	7,823,000	7,823,000	0	
	センター維持修繕業務費支出	917,000	1,581,000	1,581,250	250	
	自主事業支出	912,000	919,000	919,076	76	
	遺物収蔵品移転業務支出	0	13,579,000	13,578,765	-235	
補助事業費支出	補助事業費支出	6,120,000	6,120,000	6,120,000	0	
管理費支出	総務費支出	212,000	175,000	167,200	-7,800	
	管理費支出	113,100,000	101,193,000	101,200,220	7,220	
当期支出合計 C		1,194,537,000	1,149,812,000	1,149,811,745	-255	
当期収支差額 (A - C)		22,000	31,000	29,869	-1,131	
次期繰越収支差額 (B - C)		386,000	374,000	389,467	15,467	

8 主な行事

【令和6年】

- 4月1日 辞令交付
 - 1日 臨時理事会（書面決議）
 - 2日 新職員研修
 - 5日 発掘業務委託業者説明会
 - 20日 企画展1「キラキラ☆施釉陶磁器の世界」開会 ～11月24日
- 5月10日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会第1回役員会
 - 19日 特別講演会「山口遺跡出土唐三彩と遣唐使」
 - 21日 安全衛生委員会巡視①（上越市舘遺跡）
 - 23日 会計（監事）監査（令和5年度）
 - 26日 第1回大人向け体験会「人面墨書土器を作ろう（1）」
 - 29日 第1回定例理事会
- 6月2日 第1回まいぶん祭り
 - 10日 安全衛生委員会巡視②（南魚沼市六日町藤塚遺跡）
 - 13～14日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会
 - 19日 定例評議員会
 - 19日 臨時理事会（書面決議）
 - 21日 安全衛生委員会巡視③（村上市上野遺跡）
 - 23日 第1回埋文センター講演会「新潟・東北出土の唐三彩」
 - 25日 安全衛生委員会巡視④（柏崎市丘江遺跡）
 - 29日 交通安全講習
 - 30日 第2回大人向け体験会「人面墨書土器を作ろう（2）」
- 7月5日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会文化庁要望
 - 7日 第1回キッズ考古学教室「縄文時代はどんな時代？－土器作り体験－」
 - 20日 上野遺跡現地説明会
 - 26日 「埋文にいがた」第124号 発行
 - 26日 ハラスメント研修
 - 28日 第2回埋文センター講演会「古代の施釉陶磁器と流通」
- 8月3日 六日町藤塚遺跡現地説明会
 - 6日 第2回キッズ考古学教室「遺跡に行こう！－発掘と石器作り体験－」
 - 18日 第3回埋文センター講演会「中世の施釉陶磁器と流通」
 - 30日 救命救急講習
 - 31日 「新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 令和5年度」発行
- 9月14日 柏崎市丘江遺跡現地説明会
 - 27日 消防訓練
 - 29日 第4回埋文センター講演会「近世の施釉陶磁器と流通」

- 10月5日 上越市二反割遺跡現地説明会
6日 第3回キッズ考古学教室「縄文人の技を体験しよう！－土器煮炊きと編み物体験－」
14日 第2回まいぶん祭り
25日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会中部・北陸ブロック会議
27日 第5回埋文センター講演会「ジェンダー考古学（縄文編）」
11月7～8日 埋蔵文化財保護対策五県協議会
8日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会第2回役員会
10日 第3回大人向け体験会「幼児の手型・足型土版づくり」
11日 公益法人立入検査
21日 メンタルヘルス（セルフケア）研修
24日 第6回埋文センター講演「近世新潟町出土の施釉陶磁器と北前船」
29日 メンタルヘルス（ラインケア）研修
29日 「埋文にいがた」第125号 発行
12月16日 職場内巡視

【令和7年】

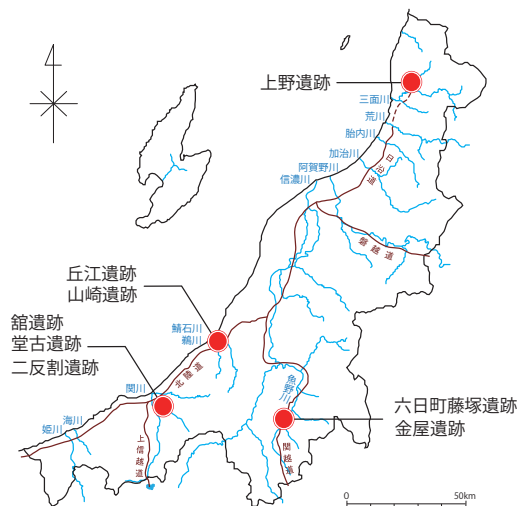
- 1月15日 ハラスメント研修
18日 企画展2「発掘新潟の遺跡2024」開会 ～3月20日
22日 第1回発掘こぼれ話
29日 文化財防火デー消防訓練
2月3日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会デジタル技術活用推進研修会
12日 第2回発掘こぼれ話
13～14日 市町村等文化財専門職員研修
3月9日 第28回遺跡発掘調査報告会
14日 「埋文にいがた」第126号 発行
24日 第2回定例理事会

Ⅱ 発掘調査・整理事業

1 本発掘調査実績一覧

事 業 者		路 線	遺跡名 (回数)	所在地	調査期間	面積㎡ (当初)	面積㎡ (実質)	主な 時代	主な遺構・遺物	担当者	報 告 書 刊 行 予 定	備 考
国 土 交 通 省	新潟国道 事務所	国道7号 朝日温海道路	上野遺跡 (第8次)	村上市猿沢・ 檜原	5/1～ 11/1	5,984	8,127	縄文	平地建物・掘立柱建物・堅穴建 物・敷石建物・石囲炉・焼土・土 坑・柱穴・土器埋設遺構・集石・ 配石・溝・廃棄域・土器・土製品・ 石器・石製品	加藤 学 加藤 元康	令和7年度 以降	支援：国際文化財・吉田・ 帆苅特定共同 企業体
	長岡国道 事務所	国道17号 六日町バイパス	六日町藤塚遺跡 (第9次)	南魚沼市余川	6/3～ 11/27	3,795	4,903	古墳 古代 中世	掘立柱建物・土坑・畑作溝・ピ ット・溝・土器集積遺構・性格不明 遺構・須恵器・土師器・珠洲焼・ 白玉・鉄製品・鉄滓	春日 真実	令和7年度 以降	支援： (株)アコード
		国道253号 八箇峠道路	六日町藤塚遺跡 (第10次)	南魚沼市余川	5/20～ 11/27	3,027	3,697					
			金屋遺跡 (第8次)	南魚沼市余川	5/10～ 6/10	430	361	古代	堅穴建物・土坑・畑作溝・ピ ット・溝・性格不明遺構・須恵器・ 土師器	春日 真実	令和7年度 以降	支援： (株)アコード
		国道8号柏崎 バイパス		丘江遺跡 (第12次)	柏崎市田塚	5/20～ 10/3	4,869	2,564	弥生 中世	堅穴建物・平地建物・土坑・ピ ット・溝・自然流路・水田畦畔・弥 生土器・珠洲焼・唐津焼・瀬戸美 濃焼・石製品・木製品・金属製品	飯坂 盛泰	令和7年度 以降
			山崎遺跡 (第5次)	柏崎市田塚	9/25～ 11/8	841	329	中世	掘立柱建物・柱穴列・井戸・土 坑・ピット・溝・階段状石組・土 師質土器・珠洲焼・瀬戸美濃焼・ 青磁・白磁・青花・石製品・木製 品	飯坂 盛泰	令和7年度 以降	支援： (株)大石組
	高田河川 国道事務所	国道253号 上越三和道路	館遺跡 (第4次)	上越市駒林	5/10～ 6/4、 7/18	288	309	中世	土坑・ピット・溝・自然流路・古 墳時代土器・土師器・土師質土器	石川 智紀	令和7年度 以降	支援： (株)ノガミ
			堂古遺跡 (第4次)	上越市米岡	5/29～ 7/29	500	456	中世	井戸・土坑・ピット・溝・古墳時 代土器・須恵器・土師質土器・青 磁・珠洲焼・肥前陶器・石製品・ 金属製品	石川 智紀	令和7年度 以降	支援： (株)ノガミ
			二反割遺跡 (第3次)	上越市 三和区岡木	7/1～ 10/9	840	743	中世	掘立柱建物・井戸・土坑・ピ ット・溝・性格不明遺構・黒色土 器・須恵器・土師器・土師質土器・ 珠洲焼・金属製品	石川 智紀	令和7年度 以降	支援： (株)ノガミ
	3事務所	5路線	8遺跡		合計面積	20,574	21,489					

2 本発掘調査遺跡位置図



3 本発掘調査

遺 跡 名	頁
上野遺跡 (第8次)	7
六日町藤塚遺跡 (第9次)	9
六日町藤塚遺跡 (第10次)	9
金屋遺跡 (第8次)	11
丘江遺跡 (第12次)	12
山崎遺跡 (第5次)	13
館遺跡 (第4次)	14
堂古遺跡 (第4次)	15
二反割遺跡 (第3次)	16

かみの 上野遺跡（第8次）

■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は三面川^{みおもてがわ}の支流・高根川^{たかねがわ}右岸の扇状地に立地し、遺跡中心部の現標高は約35～39mである。縄文時代後期前葉（約4,000年前）の大規模な集落遺跡で、膨大な数量の遺構・遺物が検出されている。第8次調査では、集落の全体像を把握することができた。

■ 層 序 堆積物は、西側の山地から流れ出た土砂流堆積物である真砂土層^{まさど}と、それが土壌化した層からなり、縄文時代後期前葉の層位をⅢa層・Ⅲb層・Ⅲc層・Ⅲd層に区分している。Ⅲa層下半からⅢb層に特に多くの遺物が含まれ、遺構の大半はⅢa層下面・Ⅲb層中・Ⅲb層下面で検出している。

■ 遺 構 第7次調査から引き続き居住域の調査を行い、多数の建物を検出した。検出した建物数は累計で249棟（平地建物210棟、竪穴建物8棟、敷石建物2棟、掘立柱建物29棟）となり、この時期の建物数としては県内最多となる。また、建物の重複関係を検討した結果、おおむね竪穴建物→掘立柱建物→平地建物と変遷することがわかった。

第8次調査で注目されるのは、集落の中央で検出した大型掘立柱建物である。8本の柱穴が「凸」字状に配列されており、建物の規模は長軸8.8m、短軸6.5mである。柱穴はいずれも大型で、規模の大きなもので直径2m、深さ1.5mであるが、1つの柱穴の中に複数の柱痕・柱当たりが確認されており、6回程度の建て替えが行われたとみられる。また、大型掘立柱建物の中央を通る線上には焼人骨集積土坑がある。集落の中央に位置すること、規模が大きいこと、同じ場所で複数回の建て替えが行われていること、焼人骨集積土坑との間に有意な位置関係が認められることから、集落において重要な施設であったと考えられる。



● 調査区全景（西から）



● 位置図（1：50,000）（国土地理院5万分の1地形図「塩野町」平成15年発行・「村上」平成10年発行）

集落の中央を横断する流路SR103の調査では、集落の形成を考えるうえで重要な成果を得られた。

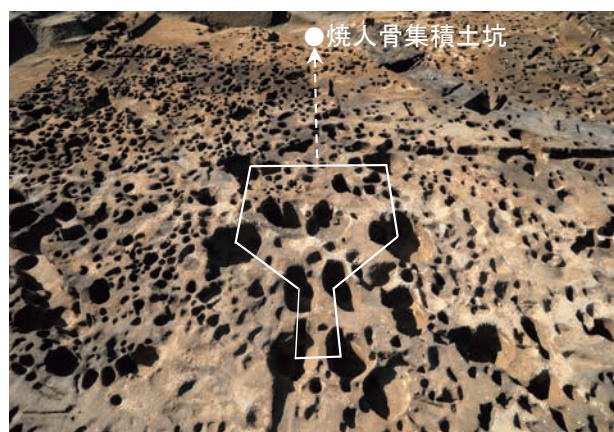
集落の開始期にあたる三十稲場式新段階に廃棄場として利用され、三十稲場式新段階から南三十稲場1式段階にかけて埋め立てている。そして、南三十稲場1式段階には、広い平坦地となり、流路跡を横断するように居住域が展開することが明らかになった。また、流路からは、三十稲場式新段階から南三十稲場1式段階の土器が層位的に出土しており、当該期の編年を検討するうえで重要な成果になると期待される。

焼人骨集積土坑の調査は、ほかの焼人骨とともに新潟医療福祉大学と連携して調査を進めている。焼人骨集積土坑人骨の人骨取上げは完了し、遺構の評価について検討中である。

■ 遺物 第8次調査では、浅箱490箱の遺物が出土した。土器は、三十稲場式新段階から南三十稲場式段階のものが大半であり、在地系のほか、北東北、南東北、関東、信州などの特徴をもつものも認められた。また、土坑内と柱穴の柱痕から出土した完形の注口土器2点も注目される。石器・石製品は、石鏃・石錐・石匙・磨製石斧・打製石斧・石錘・石皿・磨石・凹石・石棒・板状石製品などが出土した。その素材の大半は遺跡近くの高根川で採取可能であり、豊かな資源環境で石材を調達して、製作されたと考えられる。

■ まとめ 上野遺跡の集落が、三十稲場式新段階から南三十稲場式段階に形成されたことが明らかになった。現在、集落の変遷を出土遺物、遺構の検出面、遺構の重複関係を読み解きながら検討中である。縄文時代後期の集落研究において重要な遺跡と考えられ、今後、慎重に検討していく予定である。

(加藤 学・加藤元康)



● 大型掘立柱建物（東から）



● 竪穴建物（東から）



● 流路内（SR103）の堆積状況



● 土坑・柱穴から出土した注口土器

六日町藤塚遺跡（第9・10次）

■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は魚野川左岸の庄之
又川によって形成された標高180mの扇状地に立地する。
第9・10次調査では古墳時代後期、飛鳥時代、平安時代
～室町時代の遺構・遺物を確認した。主体は古墳時代後
期と飛鳥時代である。

■ 第9次調査 基本層序は過去の調査でⅠ～ⅩⅢ層に
大別しており、第9次調査・第10次調査ともこれに準拠し
た。平安時代～室町時代は土坑・溝・ピット、飛鳥時代
～奈良時代初めの遺構は大型の溝・畑作溝・土坑・ピッ

ト、古墳時代後期は土器集積遺構・ピットなどを確認した。大型の溝（SD6054）は幅約3m、深さ約1m
で東西方位にはほぼ一致している。10次調査区で見つかった南北方向の大型の溝（SD3501）に直交するた
め、これらの溝は跡を区画するものと思われる。古墳時代後期の遺構には滑石製の白玉を伴う小規模な土
器集積遺構がある。出土遺物は土師器・黒色土器・須恵器・珠洲焼の土器・陶器類のほか、鉄製品・白玉
がある。須恵器にはフラスコ形提瓶がある。

■ 第10次調査 平安時代～室町時代は土坑・溝・ピット、飛鳥時代～奈良時代初めの遺構は大型の溝、
土坑、ピット、古墳時代後期は溝・ピットを確認した。大型の溝（SD3501）は幅2.7～3.1m、深さは深い
ところで80cmある。途切れて土橋状となる地点が2か所確認できた。溝の上層からは平安時代の土器が出
土するが、下層からは7世紀末頃の須恵器が出土しており、掘削されたのはこの頃と考えられる。
SD3501の東側にはピット・土坑などが集中して見つかった。ピットには直径約90cmの大型のものも
みられる。出土遺物には土師器・須恵器のほか棒状尖底製塩土器・土製紡錘車、鉄製品がある。土師器
には7世紀後半頃の関東系の杯が確認できる。



● 調査区近景（南東から）



● 位置図（1：50,000）（国土地理院 5 万分の 1 地形図「十日町」平成20年発行）

■ まとめ 遺跡は古墳時代後期初め頃に成立するが、古墳時代後期後半に一旦^{はいぜつ}廃絶する。飛鳥時代の中頃から後半（7世紀後半）に再興する。そして飛鳥時代の末（7世紀末）には方位に一致した方形を基調とする区画溝が作られたと考えられる。

9次調査区から出土したフラスコ形提瓶は、関東地方や東北地方太平洋側の古墳や横穴墓に多く副葬される須恵器で、飛鳥時代の遺跡の再興が関東地方や東北地方と関連しており、集落内に古墳に埋葬されるような有力者がいたことを示していると思われる。（春日真実）



● 第9次調査 東西方向の大型の溝SD6054（東から）



● 第9次調査 古墳時代後期の土器集積遺構（南西から）



● 第10次調査 調査区近景（北西から）



● 第10次調査 南北方向の大型の溝SD3501断面（南から）



● 第10次調査 SD3501東側の遺構（北東から）



● 第10次調査 古墳時代後期の土器出土状況（北西から）

かなや 金屋遺跡（第8次）

■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は魚沼まきゅうりょう沼丘陵東麓にある独立丘の蟻子山東側裾部に位置し、庄之又川によって形成された標高約192mの扇状地上に立地する。金屋遺跡は大規模な遺跡で、これまでの発掘調査により古墳時代、平安時代の集落が営まれていたことが明らかになっている。第8次調査では平安時代の遺構を検出した。

■ 遺構 竪穴建物1棟、土坑6基、不明遺構2基、ピット57基、畑作溝を検出した。竪穴建物の平面形は方形で、カマドを持つ。規模は3.8×3.4mで、貼床があり、壁際に溝が巡る。カマドの芯材には人頭大の礫が使用されている。竪穴建物の年代は、出土した須恵器から、9世紀前葉頃と考えられる。これに重複する畑作溝は竪穴建物より新しく、竪穴建物の廃絶後に作られたものである。年代は不明だが、今回の調査区からは中世の遺物は出土しておらず、平安時代のものである可能性が高い。

■ 遺物 土師器・須恵器が9箱出土した。過去の調査では鉄製品や緑釉陶器などが出土しているが、今回は出土しなかった。（春日真実）



● 位置図（1：50,000）（国土地理院5万分の1地形図「十日町」平成10年発行）



● 遺跡遠景（北西から）



● 竪穴建物SI4850（東から）



● 竪穴建物SI4850のカマド（北から）

おかえ 丘江遺跡（第12次）

やまざき 山崎遺跡（第5次）

丘江遺跡

■ 遺跡の立地と調査の概要 さばいしがわ 鯖石川左岸の標高7mの扇状地の末端に位置する。これまでの調査で遺跡の南側で鎌倉～安土桃山時代（13～16世紀）の集落域、北側は当時の水田域を検出している。また、水田域側は、下層面で弥生時代後期、平安時代の遺構と重複している。第12次調査は、水田域側の市道範囲を対象とした。遺構面は3面である。

■ 層 序 これまでの調査成果に準拠しⅠ～Ⅳ層に分層した。Ⅰ層：灰色粘土（表土）、Ⅱa層：黒褐色粘土（上層の水田耕作土）、Ⅱb層：オリーブ灰色シルト（上面が上層の遺構検出面、中層の水田面を覆う）、Ⅲ層：黒色粘土（上面が中層の遺構検出面、水田の耕作土）。Ⅳ層は明青灰色粘土（上面が下層の遺構検出面、一部で上位に炭化物粒が混じる弥生時代後期の遺物包含層が堆積する。）

■ 遺 構 上・中層面は過年度調査で確認していた中世の水田畦畔・溝の延長を検出した。下層面は調査区西端で南北方向の自然流路を確認し、その東側で弥生時代後期の竪穴建物2棟・平地建物4棟、そのほかに中世水田の畦畔基底部と溝を検出した。

■ 遺 物 中世の遺物は16世紀の所産が多い。唐津焼、瀬戸・美濃焼、珠洲焼の土器・陶磁器、木製品、金属製品などが少量出土した。弥生時代後期の遺物は、自然流路から多く出土した。廃棄されたと考えられる甕・壺・高杯・器台・鉢の土器片、管玉製作関連遺物の緑色凝灰岩と鉄石英製の未成品・残核と砥石・台石の工具が出土した。

■ まとめ 弥生時代後期の建物群を確認できたことは、柏崎平野中央の低地に集落が形成していたことの事例となり、大きな成果と考えられる。



● 位置図（1：50,000）国土地理院「柏崎」平成19年発行）



● 調査区 全景（上空南西から）



● 弥生時代後期の建物群（北東から）



● 竪穴建物（手前）と平地建物（奥）検出状況（南西から）



● 中世の水田畦畔 断面（北東から）

山崎遺跡

■ 遺跡の立地と調査の概要 ^{さばいしがわ} 鯖石川左岸の標高7mの扇状地の末端に位置する。第2・3次調査では鎌倉～室町時代（13～15世紀）の集落を確認している。第5次調査は、第2・3次調査区の間を通る市道範囲を対象とした。

■ 層 序 基本層序は、これまでの調査成果に準拠し、Ⅰ～Ⅴ層に分層した。Ⅰ層：灰褐色～灰色粘土（表土）、Ⅱa層：黄灰色粘土（近・現代の水田耕作）、Ⅱb層：灰色～明青灰色粘土（近世以降の水田耕作土）、Ⅲ層：黒褐色粘土（中世の遺物包含層）、Ⅳ層：明青灰色粘土～灰色粘土（中世の遺構確認面）、Ⅴ層：明青灰色粘土～灰色シルト（中世の遺構確認面）。Ⅳ層は部分的に確認できる。

■ 遺 構 集落域の南辺にあたり遺構の分布は希薄であるが、掘立柱建物3棟、井戸12基、土坑1基、溝6条、階段状の石組を検出した。階段状の石組は、湿地状の低地に降りていくように礫石3点が据えられていた。礫石2点は平面を上にして配置し、その中のひとつは五輪塔の地輪を転用していた。

■ 遺 物 時期は14～15世紀が中心である。土師質土器、珠洲焼、青磁・白磁・青花の土器・陶磁器、茶臼・砥石の石製品、曲物・箸・漆器椀などの木製品、銭貨が出土した。

■ まとめ 遺跡南辺側の集落の一部が明らかになった。調査地付近から南側に向かって水田域になり、丘江遺跡の水田域につながっていくものと考えられる。（飯坂盛泰）



● 調査区全景（上空南東から）



● 階段状の石組（北から）

たて 館遺跡（第4次）

■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は高田平野の東部、保倉川支流の桑曾根川と飯田川に挟まれた、微高地（自然堤防）上に立地する。標高は約15.7mである。時期は、上層面が古墳時代（中・後期）・平安時代（9C後半・11C後半頃）～中世、下層面が古墳時代（前期）で、主体は平安時代（11C後半頃）である。第4次調査区は、水路工事範囲が対象で、遺跡北西部と南東部の2か所を調査した。

■ 層 序 過年度調査のⅠ～Ⅶ層の大別に準拠して分層した。第4次調査は前述の上層面（Ⅱ・Ⅲ層上位）を対象に調査した。

■ 遺構・遺物 古墳時代中期の土坑2基、ピット1基、溝1条、自然流路1条を検出したが、遺物は少量である。中世以降ではピット2基、溝7条、自然流路1条を検出した。中世のピット1基の柱痕部から、ほぼ完形の土師質土器小皿が出土した。これは建物の廃棄後、柱を抜いた後に意図的に入れたものと考えられる。ほかに現在の上越市に合併する前の市村境界付近で、路面＋側溝とそれ以前の可能性がある比較的大きな溝を検出した。

■ まとめ 2か所の調査区は遺構・遺物が希薄であったことから、どちらも集落の縁辺部と考えられる。畑作溝の存在などから、農業を生業とした集落であったと考えられる。（石川智紀）



● 調査区全景（上空南東から）



● 土師質土器小皿 出土状況（南から）



● 位置図（1：50,000）（国土地理院5万分の1地形図「高田東部」平成19年発行）

堂古遺跡（第4次）

■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は高田平野の東部、飯田川左岸の自然堤防上に立地し、標高は13.3～14.5mである。遺物包含層は耕作でほとんど削平されるが、遺構は比較的良好に遺存する。平安時代の遺物も一定量出土するが、当該遺構は明確でない。鎌倉時代・室町時代の13～15世紀が中心で、大溝（堀）で区画された東側の範囲に、掘立柱建物・井戸・土坑・溝等の遺構が集中する。大きく2時期（13世紀と14・15世紀）の集落配置が認められる。第4次調査区は水路工事範囲が対象で、第1～3次調査区からは南側に離れた1か所を調査した。

■ 層 序 過年度調査のⅠ～Ⅷ層の大別に準拠したが、第4次調査区は若干色調が異なる。Ⅰ層は現表土・整地層で、Ⅱ層の旧表土は2層に細分した。Ⅲ層（オリーブ褐色粘質土）は平安時代の遺物を含み、大半の遺構をこの上面で検出した。Ⅳ層（褐色粘質土）・Ⅴ層（暗赤褐色粘土質シルト）は無遺物層である。Ⅵ層（黒褐色粘質土）は古墳時代の遺物包含層で、井戸の壁面で認められたが、遺物は出土しなかった。Ⅶ層（黄灰色粘質土）・Ⅷ層（黄褐色粘質土）は地山である。

■ 遺構・遺物 中世の遺構は、井戸9基、土坑8基、溝4条、ピット18基を検出した。このほかに近世以降の遺構で、井戸4基、溝4条を検出した。中世の遺構が前述の大溝（堀）より東側に集中する傾向は、従来と同様である。右下写真の手前側が、第1～3次調査区から続く大溝で、上幅が3.5m程（約2間）ある。溝の肩口に土塁・堀・柵等の痕跡は確認できなかった。また溝の両脇の地山層（Ⅳ～Ⅶ層）が、溝に向かって落ち込んでいることが確認できたことから、自然流路の一部を利用した溝であることが判明した。この溝の東側に8m程離れた位置で、方向が異なるほぼ同規模の大溝を検出した。遺構集中区の区画溝と従来の大溝は走向が一致しないが、新たに検出された大溝はほぼ一致する。互いの新旧は不明である。

出土した遺物は非常に少ないが、古墳時代の器台、平安時代の須恵器の杯・甕、中世の青磁の椀、珠洲焼の甕・壺・片口鉢、土師質土器の皿、刀子、鉄滓などがある。

■ まとめ 過年度同様に大溝（堀）の東側に中世の遺構が集中している状況が確認できた。新たに見つかった大溝との関係は、集落成立期の様相を把握する上で重要である。（石川智紀）



● 調査区全景（北から）



● 中世の2条の大溝と遺構（西から）

にたんわり 二反割遺跡（第3次）

■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は高田平野の東部、飯田川右岸の自然堤防上に立地し、標高は13.8～14.6mである。調査区は東側、西側に向かい緩やかに傾斜しており、その間の微高地に遺構が集中する。12世紀前葉～中葉、12世紀後葉、12世紀末以降と3時期の変遷が想定され、距離が離れた掘立柱建物の柱筋の向きが揃う等、計画的な集落配置が認められる。

第3次調査区は、水路工事範囲が対象で、本調査対象範囲の北西部と南東部の2か所を調査した。北側は集落の縁辺部と考えられ、南側は道路外まで拡がることが確認できた。

■ 層 序 第1・2次調査に準拠し、Ⅰ～Ⅴ層に分層した。Ⅰ層は現表土である。Ⅱ層（暗褐色シルト主体）は中世の遺物包含層とされるが、遺物は非常に希薄である。部分的に2層に細分した。Ⅲ層（黒色シルト主体）は古墳時代の遺物包含層とされるが、遺物の出土は無い。Ⅳ層（褐色シルト主体）・Ⅴ層（黄褐色シルト）は地山であり、漸移層（Ⅳa層）下面で遺構を検出した。

■ 遺構・遺物 北側と南側調査区を合わせて、掘立柱建物3棟、井戸4基、土坑13基、溝9条、柱穴57基、性格不明遺構5基などを検出した。北側調査区は遺構が希薄だが、北東端の溝は第2次調査の溝と走向が直交する位置関係にあり、小規模だが重要な区画溝と考えられる。一方の南側調査区では、多くの遺構を検出した。掘立柱建物の柱穴の中には、柱当たりが明確なものが複数ある。北東寄りで検出した2棟の規模は不明だが、共に柱筋が直線的に配置され、中心的な建物的一部分と思われる。南西寄りで検出した2基の柱穴を、第1次調査の掘立柱建物の延伸と判断した。この結果、南北4間（11.2m）×東西4間（7.6m）の総柱建物と想定され、遺跡内では最大面積の建物となった。また、その建物の北東側で、大型土坑の集中範囲を検出した。沢状に落ち込む地形内に位置し、現段階で性格は不明である。

出土遺物は過年度同様に非常に少ないが、12世紀代の土師質土器の皿、珠洲焼の甕・壺、須恵器の杯、土師器の小甕、鉄滓などが出土した。

■ まとめ 検出遺構は少ないが、第1・2次調査同様の計画的な集落配置の一端を把握することができた。遺構の内容に比して遺物が少ない状況は、遺跡の性格を示す可能性がある。（石川智紀）



● 調査区全景（北東から）



● 南側調査区北東寄りの掘立柱建物（西から）

4 整理・報告作業

整理作業は、埋文センターで過年度調査の南魚沼市六日町藤塚遺跡（第4～6次調査）を行い、令和5年度整理の丘江遺跡（4・6・8～11次調査）、同年度調査の南魚沼市余川中道遺跡（第6次調査）・六日町藤塚遺跡（第7・8次調査）とともに編集作業を（有）不二出版に委託した。令和5年度から継続の3冊については印刷・刊行も行った。デジタル図化編集及び印刷用PDFデータ作成を専門業者等に委託し、報告書印刷は印刷業者にPDFデータを受け渡すことで効率化を図っている。

そのほかに、上越市下割遺跡（第9次調査）で出土した古代の遺物の接合・復元、実測を館遺跡の整理作業と併行して行った。

六日町藤塚遺跡（第4～6次調査）：遺物の実測・トレース、遺構・遺物図版及び写真図版の作成、原稿執筆、編集を行った。遺物実測には3Dスキャナーを導入し、デジタル図化を行うことで効率化を図った。報告書刊行は令和7年度の予定。

丘江遺跡（第4・6・8～11次調査）・余川中道遺跡（第6次調査）・六日町藤塚遺跡（第7・8次調査）：令和5年度に行っていた編集作業を継続し、印刷用PDFデータを作成、印刷・刊行した。

令和6年度刊行報告書

シリーズNo 発行日	報告書名 所在市町村	体裁 頁数	事業名	調査 年度	遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	担 当 者
第299集 R6.12.20	余川中道遺跡Ⅳ 第6次調査 南魚沼市	A4版 52頁	一般国道 17号 六日町BP	R5	余川中道 遺跡	集落跡	古墳時代		土師器	石川智紀
						集落跡	古代	堅穴状遺構1基、掘立柱建物2棟、土坑27基、溝24条、柱穴・ピット215基、自然流路2条	須恵器、土師器	
						集落跡	中世		珠洲焼	
第300集 R7.01.31	丘江遺跡Ⅵ 第4・6・8～11次調査 柏崎市	A4版 718頁	一般国道 8号 柏崎BP	H29・30、 R1～4	丘江遺跡	遺物 包蔵地	縄文時代 後期		縄文土器、石器	土橋由理子
						集落跡	弥生時代後期 ～古墳時代・ 古代	堅穴建物2基、土坑36基、溝10条、性格不明遺構11基、自然流路	弥生土器、石器	
						集落跡・ 生産遺跡	中世 近世	堅穴建物1基、掘立柱建物12棟、杭列3基、井戸117基、土坑76基、溝260条、水田、性格不明遺構43基	土師質土器、輸入陶磁器、国産陶磁器、石製品、木製品（金箔が押された木製塔婆等）、土製品、金属製品	
第301集 R7.01.31	六日町 藤塚遺跡Ⅱ 第7・8次調査 南魚沼市	A4版 113頁	一般国道 17号 六日町BP 一般国道 253号 八箇峠道 路	R5	六日町 藤塚遺跡	集落跡	古墳時代	土器集積遺構3基、土坑1基、焼土遺構1基、溝、ピット83基、不明遺構2基	土師器、須恵器	春日真実
						集落跡	平安時代	土坑4基、溝23条、ピット60基、不明遺構2基	土師器、須恵器、鉄器	
						集落跡	鎌倉時代	掘立柱建物6棟、畑作溝群2群、土坑11基、溝21条、ピット436基	土器、陶磁器、砥石	



3Dスキャナーを用いた遺物実測



遺構図面の整理

5 保存処理

令和6年度は、担当職員1名と嘱託員5名で木製品・金属製品の保存処理を行った。

■ 木製品の洗浄・台帳作成・写真撮影

木製品は木製品保管棟等で水漬け保管しており、保存処理は報告書刊行順に掲載遺物を優先して実施している。遺物表面を水洗い後、鉄分等の汚れを落とすため薬液に漬けて脱鉄処理を行う。その後、処理前の状態を写真に記録し、トレハロース含浸処理を始める。

■ 木製品の保存処理（第1・2表）

乾燥による木材の収縮・変形を防止し強化を図るため、木材中の水分を空気中でも安定な糖アルコール（トレハロース）に置換し、結晶化させる「トレハロース含浸法」を採用している。令和6年度は含浸期間を小型品は5か月、大型品は8か月とした。温度調整が可能な大型含浸槽（槽内長さ3.0m）2台で大型品、小型含浸槽（槽内長さ1.8m）1台で小型品を実施した。また、長年懸案であった長さ3mを超える超大型品の常温含浸を所有していた木枠を使用して行った。トレハロースの濃度40%を目標に夏場の2か月含浸した。

小型・大型木製品 令和6年度は15遺跡319点（第1表）について、トレハロース含浸から結晶化（取出し乾燥）までの作業を実施した。前年の令和5年度に保存処理を実施した大型木製品5遺跡299点（第2表）は表面で結晶化したトレハロースをスチームクリーナーで溶かして拭い、しばらく乾燥させて保存処理を完了した。

自主事業 令和6年度から柏崎市・村上市から委託され、木製品の保存処理を行った。

■ 金属製品の保存処理（第3・4表）

金属製品はX線透過撮影により遺物の構造や劣化状態を確認した後、遺物表面を覆っている錆をグラインダーやメスなどで除去する。その後、腐食を促進する塩化物・硫酸を脱塩処理により取り除き、遺物の強化と腐食促進因子による再汚染防止を目的としたアクリル樹脂の含浸を行う。令和6年度は、鉄製品は12遺跡88点（第3表）、青銅製品は10遺跡137点（第4表）の保存処理を実施した。（佐藤友子）

第1表 木製品の保存処理

報告書No.	遺跡名	点数
1	115集 蔵ノ坪	8
2	169集 坂井	2
3	196集 野地	55
4	207集 姫御前Ⅱ	1
5	207集 竹花Ⅰ	4
6	219集 六反田南Ⅲ	1
7	220集 南押上	1
8	228集 山岸	19
9	232集 境塚	76
10	251集 清水田	27
11	288集 丘江Ⅴ	80
12	288集 工田	29
13	289集 境塚Ⅳ	2
14	291集 六日町藤塚Ⅰ	4
15	292集 堂古Ⅱ	10
合 計		319

第2表 木製品の表面処理

報告書No.	遺跡名	点数
1	207集 姫御前Ⅲ	1
2	207集 竹花Ⅰ	3
3	219集 六反田南Ⅲ	24
4	228集 山岸	234
5	294集 新町Ⅱ	37
合 計		299

第3表 鉄製品の保存処理

報告書No.	遺跡名	点数
1	265集 山崎Ⅱ	2
2	266集 山口野中Ⅲ	9
3	267集 中潟館	6
4	269集 堂古	8
5	269集 二反割Ⅱ	2
6	270集 柄目木Ⅲ	13
7	273集 宝田Ⅲ	2
8	274集 丘江Ⅲ	5
9	275集 丘江Ⅰ	1
10	276集 丘江Ⅱ	14
11	277集 蕪木	5
12	278集 境塚Ⅲ	21
合 計		88

第4表 青銅製品の保存処理

報告書No.	遺跡名	点数
1	140集 東原町	40
2	265集 山崎Ⅱ	31
3	266集 山口野中Ⅲ	1
4	267集 中潟館	3
5	273集 宝田Ⅲ	5
6	274集 丘江Ⅲ	4
7	275集 丘江Ⅰ	6
8	276集 丘江Ⅱ	17
9	277集 蕪木	1
10	278集 境塚Ⅲ	29
合 計		137

Ⅲ 普及啓発事業

1 現地説明会等

令和6年度現地説明会等

開催日	内 容	事業名	遺跡所在地	主な時代	会 場	参加人数
7月20日 (土)	上野遺跡現地説明会	国道7号朝日温海道路	村上市	縄文	上野遺跡	142人
8月3日 (土)	六日町藤塚遺跡現地説明会	国道17号六日町バイパス 国道253号八箇峠道路	南魚沼市	古墳・古代	六日町藤塚遺跡	54人
9月14日 (土)	丘江遺跡現地説明会	国道8号柏崎バイパス	柏崎市	弥生・中世	丘江遺跡	113人
10月5日 (土)	二反割遺跡現地説明会	国道253号上越三和道路	上越市	中世	二反割遺跡	125人
合計						434人

2 企画展・常設展

■ 企画展1 「キラキラ☆施釉陶磁器の世界」

開催期間は令和6年4月20日(土)～11月24日(日)である。阿賀野市山口遺跡の唐三彩をはじめ県内で出土した施釉陶磁器が越後・佐渡にもたらされた日本海流通等について焦点をあてた。センター所蔵品の他、10の自治体・施設より借用した写真・遺物を展示した。展示品総数212点、会期中の入館者11,724人。



「キラキラ☆施釉陶磁器の世界」

■ 企画展2 「発掘！新潟の遺跡2024」

開催期間は令和7年1月18日(土)～3月20日(木・祝)である。令和6年度に調査・整理作業を行った村上市上野遺跡、南魚沼市六日町藤塚遺跡・金屋遺跡、柏崎市丘江遺跡・山崎遺跡、上越市館遺跡・堂古遺跡・二反割遺跡を展示した。展示品は231点、会期中の入館者2,556人。



「発掘！新潟の遺跡2024」

■ 常設展

速報展示コーナーにおいて、南魚沼市六日町藤塚遺跡(古墳時代)、南魚沼市金屋遺跡(平安時代)を展示した。職場体験で来館した中学生がネームプレート作成や展示作業等を行った。その他、令和5年度に引き続き、追加の展示ケースを3つ設け、校外学習の解説補助として火起こし・勾玉・実測用具をテーマとした展示を行った。



速報展示コーナー

3 発掘調査報告会・講演会

■ 第28回遺跡発掘調査報告会

令和7年3月9日(日)に開催した。令和6年度調査成果報告として、村上市上野遺跡、南魚沼市六日町藤塚遺跡・金屋遺跡、柏崎市丘江遺跡・山崎遺跡、上越市館遺跡・堂古遺跡・二反割遺跡の報告を行っ

た。また、シンポジウム「建物から見た縄文後期の上野遺跡」では、上野遺跡についての報告、谷口康浩氏（國學院大學）講演「縄文時代後期の集落と社会」、パネルディスカッションを実施した。会場参加者55人、オンライン配信申込者84人（県内45人、県外39人）。

■ 講演会、発掘こぼれ話

開催日、演題、参加人数（オンライン配信は申込者数）は以下の通り。

開催日	演 題	会 場	オンライン
5月19日（日）	特別講演会 山口遺跡出土唐三彩と遣唐使 東野治之氏（大阪大学名誉教授） 会場：新潟市秋葉区文化会館ホール	148	－
6月23日（日）	新潟・東北出土の唐三彩 山口博之氏（国際日本文化研究センター）	27	50
7月28日（日）	古代の施釉陶磁器と流通 春日真実（新潟県埋蔵文化財センター）	33	65
8月18日（日）	中世の施釉陶磁器と流通 水澤幸一氏（中世考古学研究者）	30	75
9月29日（日）	近世の施釉陶磁器と流通 相羽重徳氏（佐渡市世界遺産推進課）	17	33
10月27日（日）	ジェンダー考古学（縄文編） 宮尾亨氏（新潟県立歴史博物館）	23	42
11月24日（日）	近世新潟町跡出土の施釉陶磁器と北前船 今井さやか氏（新潟市文化財センター）	25	47
1月22日（水）	発掘こぼれ話 私が掘った埋葬関連の遺構 石川智紀（新潟県埋蔵文化財センター）	32	－
2月14日（水）	発掘こぼれ話 ヒスイは焼いて加工したのか 荒川隆史（新潟県埋蔵文化財センター）	26	－

4 校外学習・体験イベント等

■ 校外学習・出前授業・職場体験・団体見学

令和6年度に校外学習で来館した学校は37校2,547人、出前授業は9校686人、職場体験は1校6人（複数日来館含む）、合計47校3,239人であった。団体見学は8団体146人であった。校外学習の内容は、本物を用いた歴史学習、火起こし・勾玉作り・土器接合などの体験学習、展示見学・仕事見学である。

■ キッズ考古学教室

学年や地域が違う仲間たちと交流しながら、土器や石器などの遺物に触れ、様々な体験活動をとおして古代の人々の知恵や生活を学ぶことを目的とした。全3回連続での参加を条件に募集し、小学4年生～6年生の12人が参加した。縄文時代についての解説、センター見学、土器作り、発掘体験、黒曜石の石器作り、注記、アンギン編みなどを行った。キッズ考古学教室で参加者が作成した土器、鏃、アンギン編みのコースターをそれぞれ展示した。

■ 大人向け体験会

第1回（5月26日（日））、第2回（6月30日（日））では人面墨書土器を作成した。第1回は6人が参加し人面墨書土器の土器部分を作成した。第2回は4人が参加し自分が作成した土器に筆で人面を描き、鑑賞会・撮影会を行った。人面墨書土器は1Fエントランスに展示した（7月2日（火）～7月28日（日））。第3回（11月10日（日））は10組（計24人）の親子が参加し、幼児の手型・足型土版作りを行った。作製した土版は1Fエントランスに展示した（11月12日（火）～12月1日（日））。

■ まいぶん祭り

第1回（6月2日（日））は勾玉づくり体験を実施し205人が参加。第2回（10月14日（日））は勾玉づくり、アンギン編み、クイズに答えてガチャ、かりうち、縄文土器にさわろう、土器パズルを実施し合計308人が来場。

■県指定有形文化財「五丁歩遺跡出土脚付土器」撮影会、写生・ぬり絵の会

県文化課主催「にいがた秋の文化財一斉公開」（令和6年10月）と連携し実施した。10月2日（水）に撮影会、23日（水）に写生・ぬり絵の会を開催し、合計で9人が参加した。

5 広報

■年報

1年間の事業概要を総括したもので、8月31日に令和5年度版（A4版27頁）を刊行した。印刷物を30部作成するとともに、事業団ホームページに掲載した。

■埋文にいがた

発掘調査速報やイベント情報を中心とする広報誌で、7月・11月・3月に発行した。印刷部数は2,000部である。各刊行号とバックナンバーは事業団ホームページに掲載した。

号	発行年月日	調査・整理遺跡の紹介	その他	県内の遺跡・遺物
124	令和6年7月26日	2024年度本発掘調査遺跡・整理遺跡の紹介 上野遺跡（村上市） 館遺跡（上越市）	企画展1「キラキラ☆施釉陶磁器の世界」	山元遺跡（村上市）
125	令和6年11月29日	上野遺跡（村上市） 六日町藤塚遺跡（南魚沼市）	企画展2「発掘！新潟の遺跡2024」 第28回遺跡発掘調査報告会 小千谷市「ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。」 「佐渡島（さど）の金山」世界文化遺産登録	
126	令和7年3月14日	丘江遺跡、山崎遺跡（柏崎市） 堂古遺跡、二反割遺跡（上越市） 六日町藤塚遺跡（南魚沼市）	2025年度企画展1「金箔付木製塔婆と渡来銭」 キッズ考古学教室 長岡市「順動丸シャフト」保存処理の試み	

■年間パンフレット

埋蔵文化財センターが行う普及事業を紹介する令和6年度年間パンフレットを20,000部作成し、来館者や県内外の博物館等の施設に配付した。

■ホームページ

埋蔵文化財センターホームページでは、施設紹介、展示案内、利用案内、催しもの案内、校外学習の案内等を掲載した。事業団ホームページでは、事業団の組織・業務の公開のほか、発掘調査状況、現地説明会の案内、資料室情報等を掲載した。令和6年度のアクセス数は29,545件であった。

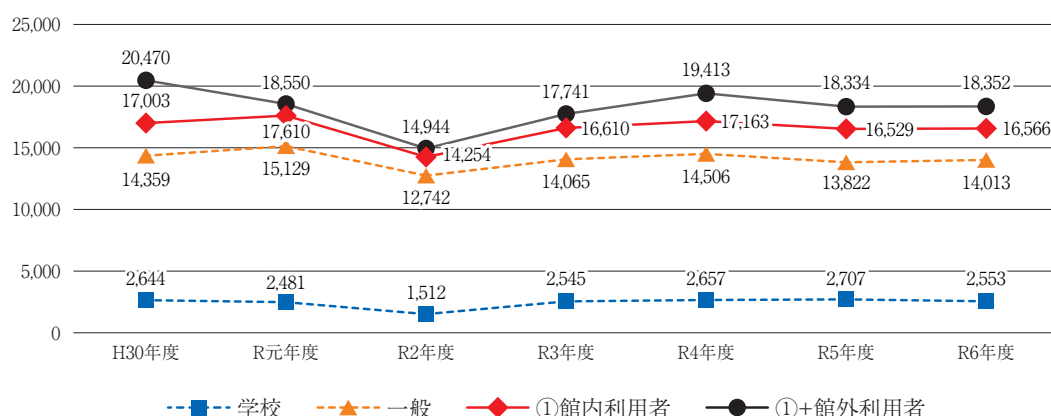
■メールマガジン・SNS（Facebook・X（旧Twitter））・YouTube

メールマガジンは催しものの情報を随時配信した。SNSはこれに加え、展示品の紹介、発掘現場の様子などを随時配信した。メールマガジンは登録数2件（昨年度比－7）、Facebookはフォロワー数1,064件（＋57）、Xはフォロワー数3,211件（＋485）である。YouTubeチャンネルの登録者数は361人（＋13）であり、令和6年度のライブ配信も含めた視聴回数は361回（昨年度比＋12）であった。

6 利用者数

令和6年度の館内利用者数は16,566人（昨年度比＋37）であった。出前授業・オンライン配信・館外イベント等の館外利用者は1,786人（－19）であった。

入館者数等（令和7年3月31日現在）



7 出土品の管理

埋蔵文化財センターで保管する出土品や写真・図面等の貸出し、掲載、使用、閲覧の依頼に対し、許可及びこれに係る事務を行っている。令和6年度は企画展等への遺物の貸出し21件7,602点（うち長期貸出し7,264点）、書籍・放送等への写真等掲載および使用20件87点、遺物分析などの使用2件8点、遺物等の閲覧50件3,411点に対応した。詳細は新潟県文化課が発行する『令和6年度 新潟県文化財年報』に掲載される予定である。

8 図 書

埋蔵文化財センターの資料室では、新潟県内を中心に全国の発掘調査報告書、考古学関係の雑誌など99,000冊余を所蔵し、開館日の平日にどなたでも閲覧することができる。事業団では、図書の受入れ・整理作業、閲覧・複写の対応などを行っている。令和6年度は1,837冊を受入れ、外部利用者は57人であった。新規受入図書一覧及び県内市町村別発掘調査報告書等目録は、事業団ホームページに掲載している。

（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団資料室 蔵書・利用統計

蔵書統計

年 度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
新刊受入冊数	2,360	2,450	2,450	2,320	2,361	2,250	2,220	2,300	2,770	2,220	8,434	1,837
累積冊数	68,187	70,637	73,087	75,407	77,768	80,018	82,238	84,538	87,308	89,528	97,962	99,799

外部利用者数

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
市町村教委埋蔵文化財担当者	34	36	30	29	19	15	13	14	22	5	14	22
大学生・大学院生・大学関係者	23	6	13	10	17	8	10	9	10	11	9	7
小学生・中学生・高校生	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	2	1
教員	1	1	1	0	1	0	2	1	0	0	3	2
埋文関係民間企業	49	50	19	33	24	13	11	6	9	27	12	6
その他埋蔵文化財関係者	71	24	30	21	32	49	21	23	22	26	21	10
一般	19	25	25	18	6	16	19	39	36	24	13	9
合計	197	142	118	111	99	101	79	93	99	93	74	57

外部利用者コピー機使用件数・枚数

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
コピー件数	107	90	53	67	49	38	43	39	53	37	35	31
コピー枚数	7,473	4,606	1,858	3,002	2,177	2,369	2,110	1,511	2,465	1,531	1,520	1,543

※R2.3.2～5.25、R3.9.3～9.16新型コロナウイルス感染拡大防止の為センター閉館。R4.1.18～3.6まん延防止等重点措置

Ⅳ 市町村及び関係機関等への協力

15団体の依頼で、埋蔵文化財の調査研究（専門研修会講師、調査指導・助言、委員会委員等）、普及（報告、講演等）に関連した事業に延べ17回の協力を行った。

	協 力 内 容	協 力 先	期 日	担当者
1	茶院A遺跡出土の古代土器の年代と生産地についての指導	新潟市文化財センター	令和6年7月8日	春日 真実
2	新潟県人事委員会採用担当ブログの記事作成「文化財調査員の仕事紹介 新潟県埋蔵文化財センター」	新潟県観光文化スポーツ部文化課	令和6年7月8日 発信	加藤 元康
3	科研費・基盤研究S「酸素同位体比年輪年代法の高精度化による日本列島の気候・生産・人口変動史の定量化」2024年度第1回全体会議	名古屋大学大学院環境学研究科	令和6年7月21・22日	荒川 隆史
4	「文化財調査員仕事説明会」発表	新潟県観光文化スポーツ部文化課	令和6年8月3日	加藤 元康
5	上野遺跡大学生インターンシップ	ドイツ・チュービンゲン大学同志社日本研究センター	令和6年8月7・8・29日	加藤 学 加藤 元康
6	デジタル実測（3D計測）による整理作業の視察	魚沼市教育委員会	令和6年8月7日	土橋由理子
7	神田茨山窯跡出土土器整理指導	上越市教育委員会	令和6年8月13日	春日 真実
8	文化庁『令和6年度埋蔵文化財担当職員等講習会発表要旨』『埋蔵文化財の活用に関する取組事例の紹介』ジェンダー関連講演会等事業概要紙上報告	文化庁	令和6年9月18～20日	佐藤 友子
9	「あさひ歴史講座 上野遺跡見学会」講師	朝日地区公民館運営協力委員会	令和6年10月20日	加藤 学
10	国道8号柏崎バイパス事業山崎遺跡視察	国道8号柏崎バイパス事業促進協議会	令和6年10月24日	荒川 隆史
11	『季刊考古学』第169号の考古学ニュースに掲載する上野遺跡原稿の作成協力	株式会社雄山閣	令和6年11月1日	加藤 元康
12	自然人類学教室の一般公開に係る上野遺跡の説明および出土品公開	新潟医療福祉大学医療福祉学研究科保健学類専攻自然人類学分野	令和6年11月2日	加藤 元康
13	歴史講座「新潟県の古代遺跡と加茂」講師	加茂市教育委員会	令和6年11月23日	春日 真実
14	ヒスイシンポジウム「縄文時代～古墳時代のヒスイ加工と流通」講師	糸魚川市教育委員会	令和6年11月23日	荒川 隆史 加藤 学
15	『木簡研究』46号「2023年度出土の木簡 ササヲ西遺跡 丘江遺跡（第11次）」原稿執筆	木簡学会	令和6年11月25日 刊行	土橋由理子
16	市町村等文化財専門職員研修「発掘調査現場における作業員教育「ミニ講座」の実践－みんなで作り上げる楽しい現場－」講師	新潟県観光文化スポーツ部文化課	令和7年2月13日	加藤 学
17	「新潟考古」に掲載する2023年度発掘調査動向の作成	新潟県考古学会	令和7年3月1日	土橋由理子

本書は研究目的での全文複写を許可します

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報
令和6年度

印刷 2025（令和7）年8月28日

発行 2025（令和7）年8月29日

編集発行 公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟県新潟市秋葉区金津93番地1
TEL 0250-25-3981

印刷・公開用データ編集
株式会社 ウィザップ
TEL 025-285-3311
